

令和3～5年度

厚生労働科学研究費補助（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究）
「新しい生活様式における適切な健診実施と受診に向けた研究」
論点整理

- 「オンライン健診」
- 「指先微量血液検査（郵送健診・指先健診キット）」

「新しい生活様式における適切な健診実施と受診に向けた研究」

研究代表者

杉森裕樹

令和 6（2024）年 3月

令和3～5年度「新しい生活様式における適切な健診実施
と受診に向けた研究」班

<研究代表者>

杉森裕樹（大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授）

<分担研究者>（五十音順）

塩見美抄（京都大学医学研究科 准教授）
須賀万智（東京慈恵会医科大学医学部 教授）
鈴木正人（日比谷国際クリニック 院長）
高谷典秀（医療法人社団同友会予防医学研究所 所長）
立道昌幸（東海大学医学部基盤診療学衛生学公衆衛生学教授）
中山健夫（京都大学医学研究科教授）
原 聖吾（株式会社MICIN CEO）
平尾磨樹（大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授）
福田 洋（順天堂大学医学部予防医学・健康科学学講座特任教授）
武藤繁貴（聖隷福祉事業団聖隷健康診断センター 所長）
村上正巳（群馬大学大学院医学系研究科 教授）

<研究協力者>（五十音順）

東 泰弘（富士通株式会社健康推進本部 統括本部長）
五十嵐中（横浜市立大学医学部健康社会医学ユニット 准教授）
池田孝行（聖隷予防検診センター）
伊藤直子（大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授）
岩瀬裕三子（京都大学大学院医学研究科）
王 麗華（大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授）
小島美和子（有限会社クオリティライフサービス代表取締役）
小田嶋剛（日本赤十字社液事業本部中央血液研究所 研究員）
窪寺 健（有限会社ビガージャパン CEO）
佐々木敏雄（バイオコミュニケーションズ）
鈴木桂子（大東文化大学スポーツ・健康科学部 助教）
関塚光宏（富士通株式会社健康推進本部 産業医）
二野屏美佳（大東文化大学スポーツ・健康科学部 特任助手）
深井航太（東海大学医学部基盤診療学衛生学公衆衛生学 講師）
福井敏樹（オリーブ高松メディカルクリニック予防医療センター 院長）
古屋佑子（東海大学医学部基盤診療学衛生学公衆衛生学 助教）
町田美千代（大東文化大学スポーツ・健康科学部 特任助手）
森本真由美（大東文化大学スポーツ・健康科学部 特任助手）

「オンライン健診」論点整理

- オンライン健診は、施設健診を代替するものではない
 - 特定健診項目のオンライン実施には、家庭で体重計、血圧計の備えが不可欠である
 - 自宅での頻回な血圧測定、体重測定が本来なら望ましい
 - 医師による診察には限界がある
 - 血液検査については「指先微量血液検査（郵送健診・指先健診キット）」の実施可能性の議論が必要である
- オンライン健診の実施可能性の議論をさらに検討することが必要である
 - 健康保持増進に寄与できるレベルはどこなのか、必要な検査項目ごとのミニマムレベルでの精度の限界値を明らかにすることが今後の課題として残った
- オンライン健診は、施設健診が様々な事由から困難であり、受診機会を逸している対象者に対して、機会を少しでも増やすことを目的として実施可能性を検討することが望ましい
- 保健師等による医療職によるオンライン健診の実施は、生活習慣の偏りを是正する良い機会となり得る
 - 特定保健指導の初回面談が確実に出来る機会となる可能性がある

「指先微量血液検査（郵送健診・指先健診キット）」論点整理

- 多くの検査項目で静脈血と手指血の高い相関関係を認めた。臨床的許容誤差範囲等の基準から検討した結果、HDLコレステロール、AST、 γ GT、HbA1cに偏りが認められたが、4者について補正式を作成した
- 手指血の遠隔地搬送における影響はなかった
- 指先健診キットの検体エラーは自己採血操作の不慣れが原因の大部分を占めた。自己採血操作方法を解説するパンフレットや動画改訂などの環境改善により検体エラーは大きく改善した
- 指先健診キットの利用にあたっては、受診者目線での使用方法を周知させる環境整備の対策（検査リテラシーの向上など）が同時に重要である